

第4回川崎市文化芸術振興会議部会会議録（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議部会
- 2 日時 平成19年6月25日(月)
午後5時30分から7時30分
- 3 場所 川崎市役所 第3庁舎15階第4会議室
- 4 出席者
(1) 委員 澤井委員、垣内委員、林委員、前田委員

(2) 市出席者 市民局市民文化室 磯野室長、濱舘主幹、服部主査、川口職員
- 5 議題
文化アセスメントについて
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

- 議長 議題資料について、事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局 議題資料1、2が音楽関係、議題資料3、4が美術関係の試行用事例であり、平成18年度の内容、目的、実施後の状況等について記載した。議題資料1はフェスタサマーミュージアを事例とし、議題資料5の事業報告は議題資料1の関連資料である。短時間のコンサートや平日の昼のオーケストラ公演、公開リハーサルやマエストロのプレトーク付き公演、夜8時からの公演など、クラシック音楽の「感動」と「楽しさ」を体験する音楽祭とし、ミニコンサートや東京交響楽団60年のあゆみ展も開催。様々な取組と工夫により、クラシックコンサートに来たことがない人にも「クラシックを楽しむ」というライフスタイルを提案し、クラシック音楽の裾野を広げることを目的としている。実施後の状況では、独創性については満足とし、目的適合性、市民参加や満足度、周知度はほぼ満足としている。議題資料2は東京交響楽団市内巡回公演を事例とし、東京交響楽団が市内の病院、学校、福祉施設、ホールなどに赴き、室内楽のアンサンブル演奏を行う。音楽に接する機会の少ない人のために東京交響楽団が訪問し良質の音楽を楽しんでもらう機会をつくることを目的としている。実施後の状況では、目的適合性を満足とし、その他についてはほぼ満足としている。
- 議長 それでは、音楽の事例について審議したい。
- 委員 議題資料1の指標の中で入場者率56%は何に対するものなのか。

- 事務局 公演ごとに設定する定員に対する率である。
- 委員 日本のオーケストラの公演では5～60%である。招待客の率はどれぐらいか。
- 事務局 確認して報告したい。
- 委員 チケットの値段は2～3千円で設定しており、安くなっている。もう少し観客が増えてもいいのでは。
- 議長 指標で事業のコストの項目があるが内容は。
- 事務局 事業の企画等の事業費はサマーミュージア協賛金で充当しており、その額である。
- 議長 事業の目的と実施主体を明確にする。3＝普通というチェックは意味があるのか。No.3の評価で企画の妥当性と充実の位置づけが方法の妥当性とどう違うのか。また、項目に目的の達成度として事業の効果を設けてはいかがか。効果を計るには時間的な要素が必要であるが。
- 委員 フェスタサマーミュージアの事業により若い世代が増え裾野が広がったという効果を計るのに観客の分析が必要になる。
- 委員 フェスタの目的は裾野の拡大としており、そのために様々な方法によるコンサートを行っている。目的に対して内容がうまくいっているのかどうか。このためには、初めての人、リピーター、なぜ来たのかなどの観客分析が必要である。また、バラエティに富んだ内容をどのように評価するのか。
- 委員 クラシック以外も行ったのか。
- 事務局 邦楽、ジャズコンサートも行っている。
- 委員 リピーター、年代など観客分析を行うためのアンケートも考えるべき。
- 事務局 裾野を広げるといった目的は抽象的では。
- 委員 目的として成り立っている。裾野を広げるといった場合、クラシックファンの中から会員を増やすのか、クラシックファン以外の会員を増やすのかがある。後者は難しい。
- 委員 経年調査を行うことにより効果が計れる。2,000円では高すぎる。1,000円、1,500円ぐらいでなければ人は増えていかない。
- 議長 目的についてはできるだけ多く記載し、その中で優先順位をつけたほうがいい。都市イメージなどを意識したレベル的に高い目的があれば記載したほうがいい。
- 委員 リピーターが増えた、平均年齢が下がったなど色々なことがわかるようにし、その中で、何が足りないかなどについて評価ができればいい。
- 議長 波及効果を暗示できるような資料があればいいが。
- 事務局 資料的には難しい。
- 議長 評価シートについてもっと多く内容を記載したほうがいい。
- 事務局 現況については記載できるが、実施後の状況については、分析も必要であり、記載方法によって捉え方が違う場合もあり、困難な面もある。
- 委員 確かに中期的な見方で5年間ならばその間の変化を考えればいいが、1年での判断は難しい。
- 委員 議題資料2の指標の中で参加者利用者が38%となっており、その理由について会場の規模によるというだけでなく、どの場所でどうだったのか、もう少し詳しく具体的に記載してほしい。また、事業の全体像がわかるように、各年度について相対化できるような記載を考えてほしい。議題資料1の指標で数字が記載

されているが、相対化できるように全国平均などの数字による資料があれば記載してほしい。数字偏重にしないためにもヒアリングはやっていきたい。

委員 目的を総花的にするのではなく、目的に優先性をつける。議題資料1の目的である裾野を広げることを最大の目的として、その達成を踏まえ、その他の効果を考える。また、音楽を進めることを目的とするならば、そのためにどの事業で行うのか明確にした方がいいのでは。

議長 議題資料1のように目的が多くある大きな事業と議題資料2のように目的が明確化している事業の両方があり、その違いがはっきりわかるように記載してほしい。それでは、次に美術関係の事例の説明をお願いしたい。

事務局 議題資料3はかわさき市美術展を事例とした。日本画、油彩、水彩、版画、写真、書などの市民の応募による美術展であり、最優秀作品には賞金50万円とアートガーデンかわさきでの一年間の展示が行われ、文化芸術を広く市民とともに共有し、市民の文化芸術活動の推進を目的としている。実施後の状況では、独創性、人材育成支援に関して工夫により可能とした。議題資料4はアンデパンダン展を事例とし、内容は絵画、写真、書道の作品の発表の場として作品に優劣をつけず、講評のみを行う展覧会であり、地域文化の発展と出品者相互の親睦を図ることを目的としている。実施後の状況では、独創性の点で出品作品にかわさき市美術展との違いが見えにくい状況があるとした。

議長 意見があればどうぞ。議題資料1の目的は人材発掘・育成ということではないのか。

事務局 人材発掘・育成というシステムにはなっていない。広く市民から募集し作品の発表の場をつくっていく。

委員 市の委託事業であれば、事業費を記載する。

委員 指標の応募者、出展数が人口に比べて少ない。地方で審査員として携わったことがあるが、もっと数が多かった。

事務局 出品数はピーク時の半分ぐらいになっている。

委員 出品者の年齢も高いのでは。

議長 発表の場として位置づけられているのであれば、出品数が少ない。もっと目的や方法を考えるべき。

委員 市民が発表する場は必要である。ただ、公募展として賞を受けることが以前ほど魅力的になっていない。

委員 別々ではなく一緒に開催してもいいのでは。

委員 長くやっている事業は得てしてマンネリとなりこのようになる。評価シートにどのように記載できるか。

委員 議題資料3の市民の文化芸術活動を推進するという目的はいいのだが、今の事業の方法ではたして達成できるかが問題である。

議長 評価シートの3＝普通をなくし、評価の企画の妥当性と充実の項目を方法の妥当性に組み込み、新たな項目として事業の効果を入れる。審議した内容について、事務局が問題の整理を行い、各部会委員がコメントを添えたものを、次回の本会議で報告する。

(会議終了)